

## 第67回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

JG012CE	中学	地学	高知県
学校名	須崎市立上分中学校		
研究作品タイトル	新莊川の玄武岩礫はどこから？ 混在岩層における玄武岩の分布について		
研究者氏名 (共同の場合はグループ)	植村 晴陽		
指導教諭氏名	松田 雅俊		

### 【動機】

私は家の近くの新莊川で多く見つかる玄武岩が、須崎市には海洋プレートにのってやってきた火成岩が大陸にぶつかって隆起したものであることを知りました。この玄武岩は新莊川左岸の混在岩層の中にあり、層のどこから来たのかを知りたいと思いこの研究を始めました。

### 【方法】

地質図で確認すると新莊川左岸に混在岩層があり、ここから川に流れ出ているのではと予想し、新莊川本流と支流19本すべての川とその周辺の石の調査をしました。また、混在岩層を通る川には玄武岩が出ると仮説を立て、1本の川で4～5地点を細かく調査しました。

### 【結果】

仮説と異なり、川が混在岩層を通るか否かと玄武岩の有無は関連がない所もありました。また、調査した結果を地質図上に落とし込むと、玄武岩がある川ない川は隣り合ってたまってある事が判明しました。

### 【まとめ】

混在岩層には必ずしも全体に玄武岩がるわけではない、ということが現地に足を運んだ実地調査をすることでわかりました。調査結果から、混在岩層の中でも玄武岩はブロック状に分布しており、ある所ない所がかたまってあることが判明しました。

### 【展望】

石によって硬度や比重が異なるため、そこにある岩石が地形や水の流れに影響を及ぼすことが考えられるので今後地形と岩石の関係などの研究ができると思います。岩石を調べることは地球の歴史を知ることだと思います。岩石から地球が始まり、土ができて植物動物が生きられると思うので、よりよい地球環境を作るための研究につなげたいと思います。